

## 平成23年度極域科学専攻在学生アンケート集計結果

### 1. 趣旨

当専攻の教育課程等に関するアンケートを行い、学生の意見を聴取することで、当専攻の教育課程、教育研究環境等の改善に資することを目的とする。

### 2. アンケート実施方法

極域科学専攻生にアンケート用紙を個別配布（pdfファイルで配付）し、電子データで回収。

### 3. 回収率等

- (1) 対象在学生数 9人
- (2) 回答数 6人
- (3) 回答率 67%

### 4. 集計結果と個別分析

評価基準は各項目共通（自由記述部分を除く）で次のとおり。

「4：強く思う 3：そう思う 2：そう思わない 1：全くそう思わない」

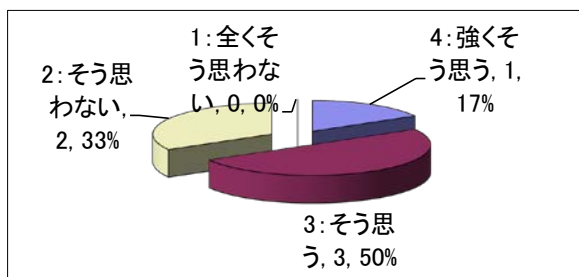
なお、無回答及び該当無しという回答については、集計の対象からは除外した。

コメントは回答結果をもとに事務局が原案を作成し、専攻長が校閲した。

### (1) 研究指導について

#### 1) 研究指導を複数の指導教員で行う複数指導体制は機能していると思うか。

4：1件 3：3件 2：2件 1：0件 【平均2.83】

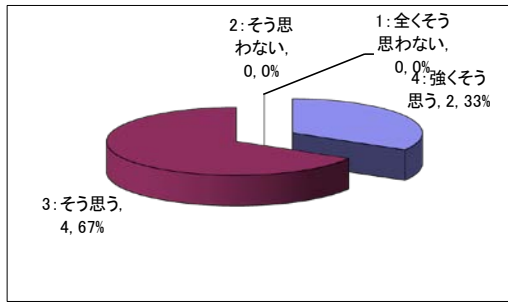


(コメント)

2に2件、3に3件回答があり、複数指導体制について学生が不満を感じていることが分かる。学生に対して何かしらの反応を示す必要があると思われる。

2) 指導教員は研究指導に十分な時間を割いていると思うか。

4 : 2件 3 : 4件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.33】

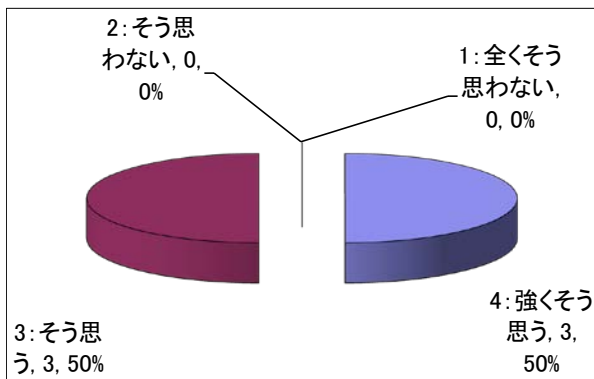


(コメント)

4と3をあわせて、6件100%であり、おおよそ十分な時間を割いて研究指導を行っていると思われている。

3) 指導教員は学生の研究計画策定に関し適切な助言を行い、研究計画の実施に際しては適切に指導を行っていると思うか。

4 : 3件 3 : 3件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.50】

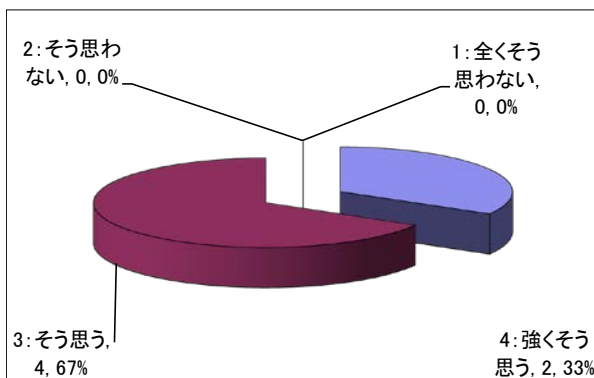


(コメント)

4と3をあわせて、6件100%を数え、ほぼ適切な助言及指導を行っていると言える。

4) 総合的に考えて研究指導に満足していると言えるか。

4 : 2件 3 : 4件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.33】



(コメント)

4と3をあわせて、6件100%を数え、ほぼ研究指導に満足していると言える。

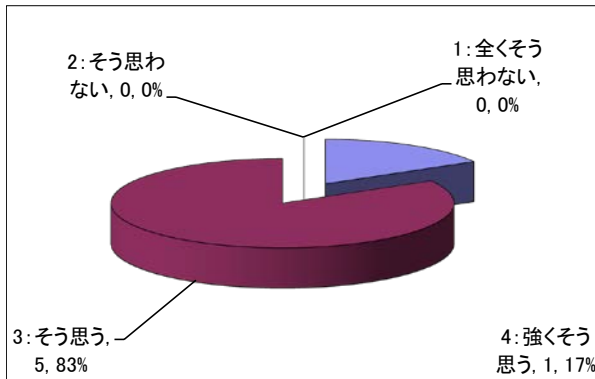
4-1) 言えない場合は、どのような点が満足と言えないのか、又どのような対応をすべきか記載して下さい。(自由記述)

・メンタルケアは不十分だと思う。

## (2)教育課程(カリキュラム)について

1) 専攻で開講している専門科目は当該分野での学位取得に向けて必要な科目を網羅していると思うか。

4 : 1件 3 : 5件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.17】



(コメント)

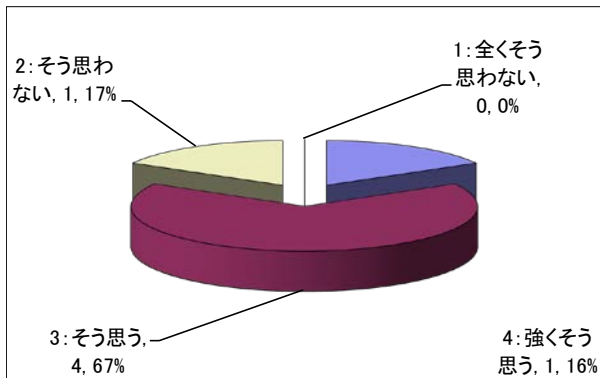
4と3をあわせて、6件100%を数え、専門科目は学位取得に向けて必要な科目を網羅していると考えられる。

1-1) 思わない場合は、どのような授業科目が必要だと考えるか記載して下さい。(自由記述)

回答なし

2) 研究科で開講している研究科共通基礎科目は、研究科の共通基礎科目として適切な内容だと思うか。

4 : 1件 3 : 4件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.00】



(コメント)

4と3の回答をあわせて5件で83%であるため、研究科共通基礎科目は適切な内容であると言える。

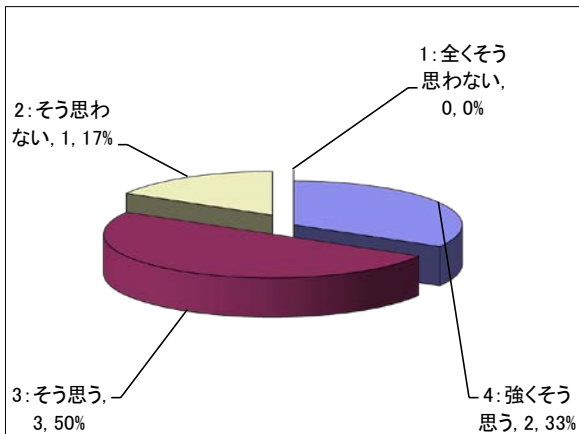
2-1) 思わない場合は、その理由を記載して下さい。また研究科共通基礎科目として開講すべきと考えられる授業があれば記載して下さい。(自由記述)

・英語によるプレゼンテーション以外、研究科共通に必要な科目があまりないように思える

### (3)教育研究環境(施設及び設備や経済的支援等)について

1) 学生の居室のスペースは十分と思うか。

4 : 2件 3 : 3件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.17】

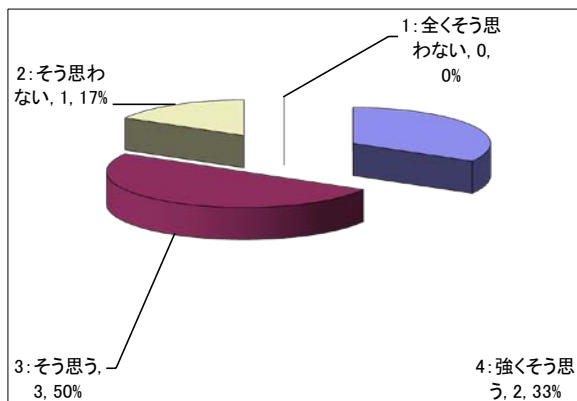


(コメント)

4と3あわせて、5件83%であり、ほぼ十分な居室スペースが確保されていると言える。

2) 学生が研究活動を実施する上で必要な機器等の設備は十分と思うか。

4 : 2件 3 : 3件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.17】



(コメント)

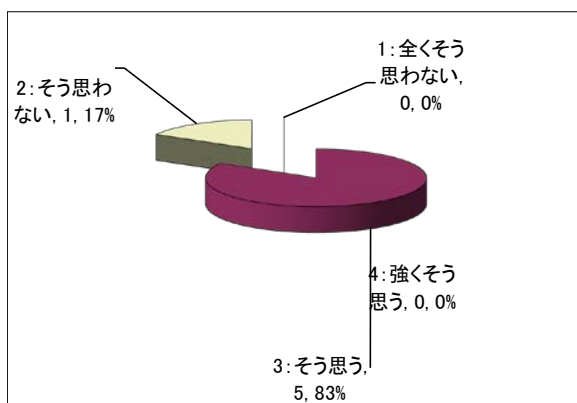
4と3あわせて、5件83%であり、ほぼ十分な研究設備が整っていると言える。

2-1) 十分でない場合、どのような機器が必要か。(自由記述)

・共通機器室をつくり、各機器に対し専門の技術員を配置する必要がある。

3) 図書室の蔵書は十分と思うか。

4 : 0件 3 : 5件 2 : 1件 1 : 0件 【平均2.83】



(コメント)

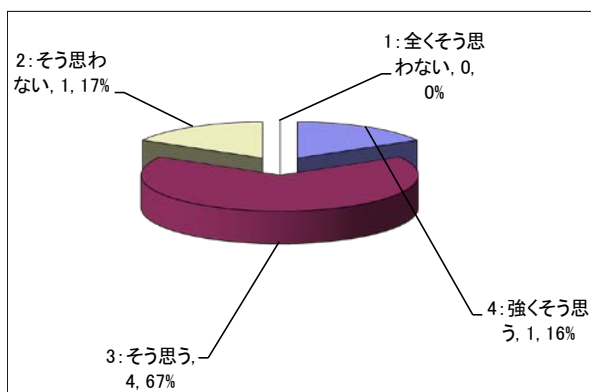
4と3あわせて5件83%であり、ほぼ蔵書が整っていると言える。極域に関係のない一般的な専門書が不足している、とコメントがあり、年度末に学生には購入したい物品を伺っているのでその時に言ってもらようとする。

3-1) 十分でない場合、どのような蔵書が必要か。(自由記述)

・十分でないと思うときはありますが、総研大の費用で購入していただくことができるので、特に不満はありません。  
・極域に関係のない一般的な専門書が不足している。

4) 利用できる電子ジャーナルの種類は十分と思うか。

4 : 1件 3 : 4件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.00】



(コメント)

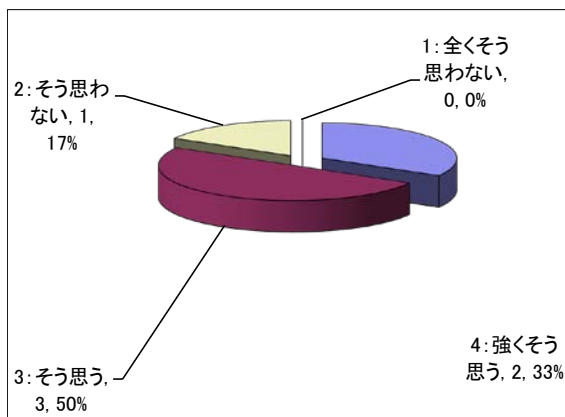
4と3あわせて、5件83%であり、ほぼ種類がそろっていると言える。

4-1) 十分でない場合、どのような種類の電子ジャーナルが必要か。(自由記述)

・不十分ではあるが、図書室のシステムでうまくおこなえています。

5) 図書室その他の施設の利用はしやすいと思うか (利用時間、利用条件、利用手続き等の点から)

4 : 2件 3 : 3件 2 : 1件 1 : 0件 【平均3.17】



(コメント)

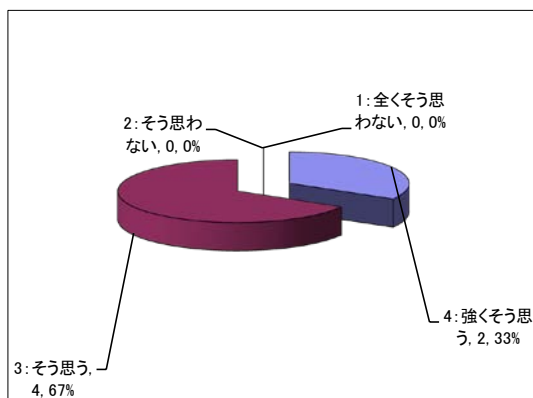
4と3あわせて、5件83%であり、利用しやすいと言える。照明が自動なのは、省エネのためなので協力を求める。

5-1) 利用がしづらい場合、どの施設がどのように利用しづらいか記載して下さい (自由記述)

・照明が自動で消えてしまうのが不便です。

6) リサーチアシスタントは学生の研究能力向上に資するものとなっていると言えると思うか。

4 : 2件 3 : 4件 2 : 0件 1 : 0件 【平均3.33】



(コメント)

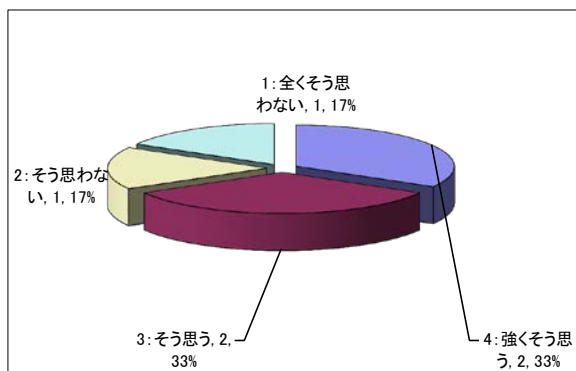
4と3あわせて、6件100%であり、RAが研究能力向上の観点から、おおよそ学生にとって資するものとなっていると言える。

6-1) 思わない場合、理由は何か。また、どのような対策が必要か。(自由記述)

・できればRAの雇用を通年にしてほしい。

7) 学生の研究活動支援対策（学生支援経費による交通費、宿泊費の支援、旅行時の傷害保険に専攻として一括加入等）は十分と思うか。

4 : 2件 3 : 2件 2 : 1件 1 : 1件 【平均2.83】



(コメント)

2に1件、1に1件の回答があり、学生の研究活動支援対策について、不満があることが分かる。対策をとる必要がある。

7-1) 思わない場合は、どのような問題点があるか。また他にどのような支援が必要か。

- ・海外、特に北欧においては物価が高いため1日あたりの宿泊費は十分とは言えない。
- ・宿泊費が往々にして足が出ます。見直しは毎年求めていると思いますが、改善する様子が見受けられません。

(4) その他（その他意見、要望等を自由に記述して下さい。）

- ・5年一貫制ではあるが、2年修了後に他大学院のように修士論文を提出する必要があるのではないか？一度区切りをつけた方が5年間の計画を立てやすい。
- ・学生の野外調査における単独調査や学生の自動車運転の制限について、明文化すべきことや不文律を決める必要があると思う。海外・国内の違いや単独での調査と自動車運転のなど曖昧な点が多い。
- 現状の極地研では学生の自動車運転もちろん、国内の野外で学生のみで調査を行うことすら制限されています。これでは、身動きが非常に取りづらく、調査の効率も悪い。また、担当する学生の多い先生では、先生にも学生にも負担が掛かる可能性がある。研究所や大学の方針として、野外観測における安全管理を怠らないのは重要であると思うが、「国内の比較的安全な場所に限って」「指導教員の許可した場合」など、条件をつけてでも学生のための野外活動はできるようにして頂きたい。
- ・研究活動への金銭的支援は十分であるが、野外での活動に対する制約が多く、研究に支障がでている。自動車の運転、教員の同伴等の条件を考え直してほしい。
- ・できれば学生の居室は一つにまとめてほしい。ただでさえ学生が少ないので…。

5. 各項目におけるまとめ

(1) 研究指導について<項目(1)-1~4>

・今回のアンケートの結果、最も結果の悪かった項目が、(1)-1) 複数指導体制についての項目であった。複数指導制は、過去の研究指導の経験を踏まえ、葉山本部が推奨する基本方針である。教員がフィールド等へ長期出張することが多い極域科学専攻では、主任指導教員不在中でも副指導教員に学生指導を依頼できる複数指導制は、学生にとっても有益な制度だと考えている。

また、主任指導教員と学生の問題が生じた場合等、主任指導教員以外の指導教員の果たす役割は重要である。しかし、上記のように感じる学生がいることに変わりはないため、引き続き専攻委員会で教員に周知し、注意を促す。

主任指導教員による研究指導の量と質については、2) 及び3) の項目からほぼ十分な水準にあると言える。また、総合的に考えた場合の満足度についても、ほぼ十分な水準にあることがわかる。

・メンタルヘルスクエアが不十分である旨の意見があった。現在は精神科での相談のみであり、精神科は受診しづらいため相談者が少ない。来年以降スクールカウンセラーを経験した臨床心理士のいる病院に頼む等改善を図りたい。

(2) 教育課程(カリキュラム)について<項目(2)-1~2>

英語によるプレゼンテーション以外に役立つ科目がないというコメントがあったため、今後複合科学研究科全体でカリキュラム編成を検討していきたい。

(3) 教育研究環境(施設及び設備や経済的支援)について<項目(3)-1~7>

・共通機器室を作り専門の技術員を配置すべき、という意見があり、所全体の研究に関わることなので、関係する委員会に報告する。

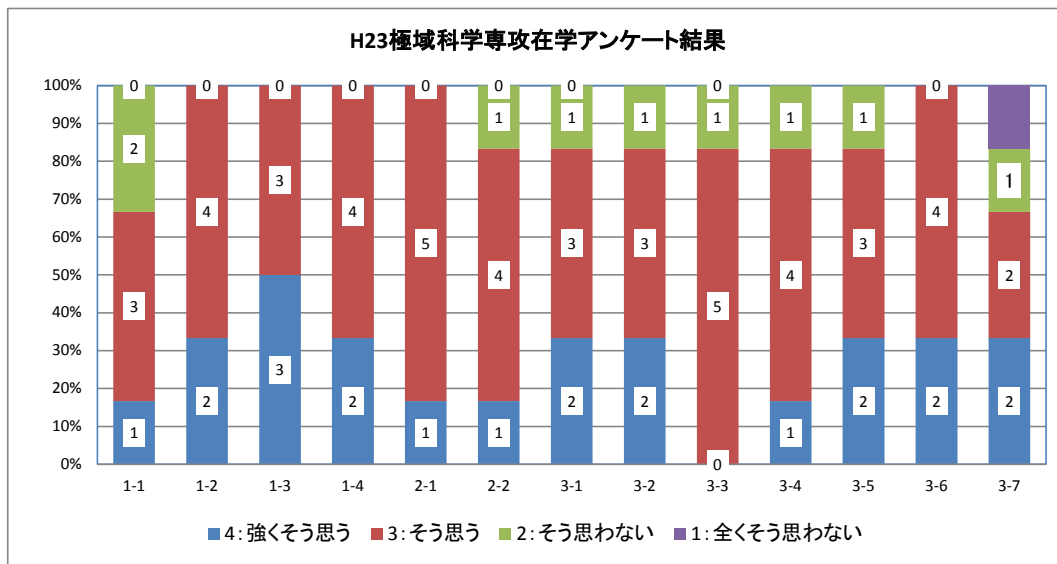
・RAの雇用を通年にしてほしいという意見については、RAは5月から2月までの期間で雇用することが要項に明文化されている。教育的配慮から、年間480時間を超えないように設定されているので、増やすことは難しい。

・研究活動経費について、宿泊費にお金が足りないというコメントが多い。ただし、授業料を支払っている学生の身分のため、旅費に上限を設けることでわざとお金を少し負担させている専攻もある。本専攻でも旅費に上限を設けている趣旨は同じなので、理解してほしい。

・フィールドワークの際、学生の単独調査や自動車運転の制限について、明文化してほしい、見直して欲しい等のコメントがついており、安全性が絡むことなのですぐに対策がとれるわけではないが、まずは専攻委員会で学生がこのように思っていることを報告した。今後本委員会内で議論していく。

・2年が終わる際に、修士論文を提出する必要があるのではないか、というコメントがあった。現在、総研大本部の方でも教育研究委員会でそのような議論がされているため、動向を伺っている現状である。

・学生の居室を1つにしてほしい、というコメントについても、特任研究員と同じ部屋の方がいいという研究グループもあるため、どちらがいいか検討していきたい。



6. 今後の対応

平成24年度についても同様のアンケートを実施し、評価及び年度ごとの比較を行う予定。

今回の調査結果については、専攻委員会及び学生へ回付し、極域科学専攻HPに掲載する。